2018 年 10 月 30 日

アルペン競技運営に関する伝達事項

10 月 13 日･14 日に開催された、アルペン加盟団体代表者連絡会議において使用された資料を公開いたします。FIS ルール･SAJ ルール、アルペン委員会内規、資格等、2018-19 シーズンのアルペン競技運営に関する様々な情報が含まれておりますので、地域内での情報の共有にご利用下さい。

なお、下記の点にご注意下さい：

1. 加盟団体連絡者会議開催以降、変更･追記になった箇所があります。文中に青字にて表記されておりますので、ご確認下さい（ハイパーリンクは除きます）。特に、次の 2 点にご注意下さい：
   （ア）国内公認大会参加資格、2002 年生まれの条件変更
   （イ）ユース大会開催要領、標高差変更の撤回
2. 次の資料が追加されています：
   （ア）10 月 21 日に開催された SAJ-TD セミナーでの資料
   （イ）「2017 年 FIS 脳震盪ガイドライン」
   （練習･大会中に起きた脳震盪事故対応のガイドラインとして、周知をお願いいたします。）
3. 速報版としてお使い下さい。11 月下旬を目処に、「競技運営ハンドブック」を発行する予定です。

以上

競技本部長　皆川賢太郎
アルペン委員長　加藤清孝

（公財）全日本スキー連盟競技本部　アルペン加盟団体代表者連絡会議
会議次第

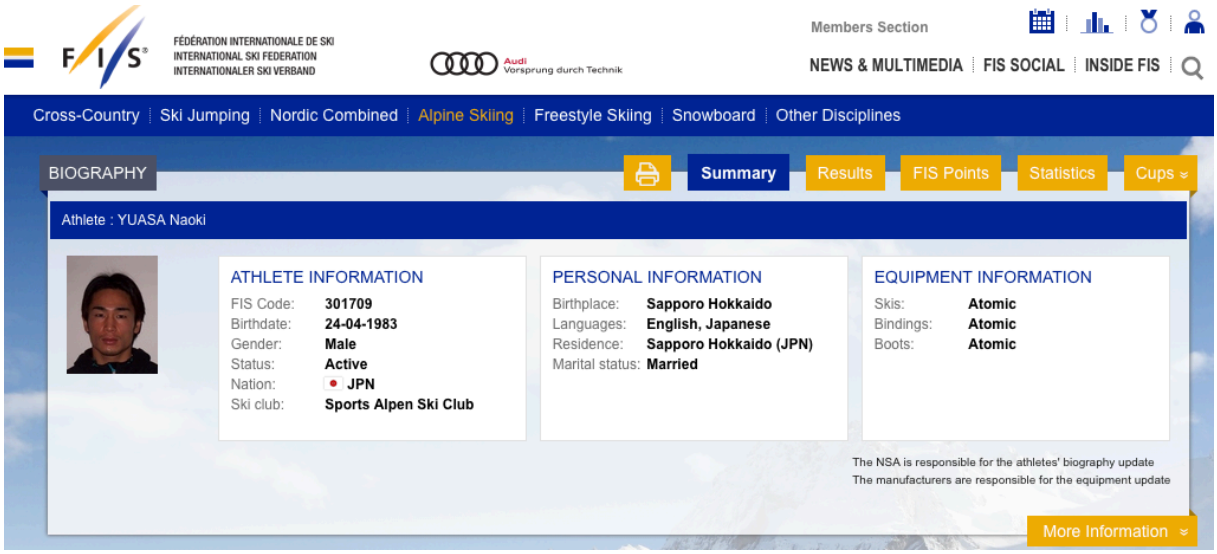
開会挨拶：中村副本部長（アルペン委員会担当理事）

報告事項：アルペン委員会

【メンバー】
担当理事：中村実彦（長野県）
委 員 長：加藤清孝（秋田県）

委員及び主担領域
渡辺淳浩（宮城県）：TD
澤野　博（学連）　：ルール、コース公認
網野正信（北海道）：レース公認、カレンダー
大野正智（北海道）：計時計算、P システム
八軒徹　　（滋賀県）；セッター
久保田運也（東京都）：主催レース管理
岡澤研太（学連）　：U23、UNI レース、高速系レース
山口浩二（石川県）：U19
金子未里（秋田県）：U16
滝下靖之（北海道）：兼 Nat チームセクレタリー
大瀧詞久（長野）　：兼国内担当チーフコーチ

【FIS】
1.　中村副本部長報告（資料）
2.　Active Status の確認
18-19 シーズン FIS 競技者登録を終えた選手は、必ず、FIS ウェブサイト BIORRAPHY ページより自分のサイトに入り、ATHELETIC INFORMATION の Status が“Active”になっていることを確認してください。
Active になっていない場合は、レースに出場することができません。すぐに SAJ 事務局に連絡して下さい。



3. コース内ヘルメットの着用
   2018 年 5 月の FIS アルペン委員会において、選手のみならず、コーチ及び大会役員もコース内ではヘルメットを着用することが、強く求められました。つきましては、国内大会においても、大会関係者にヘルメットの着用を推奨していただきますよう、お願いいたします。

4. FIS Snow Major Competition Policy
   今シーズンより FIS では、世界選手権およびジュニア世界選手権を対象に、FIS Snow Major Competition Policy を発行し、全参加者（選手、コーチ、役員等）をあらゆるハラスメントや虐待から護ることを宣言しました。全参加者が大会中、いかなるハラスメントや虐待を受けることがあってはならず、このようなことが何かあった場合は、通報を受けるシステムを設ける事を開催者に義務づけています。また、各 NSA に対しても、同様のシステムを設ける事を勧めています。
   国内大会におきましても、「いかなるハラスメントや虐待も許さない」という姿勢で臨んでいただくよう、お願いいたします。

5. ICR プレシジョン北半球版
   18-18 シーズンの ICR の変更点を記した、ICR プレシジョン北半球版が 11 月に発行されます。アルペン委員会として翻訳・発行を行いますが、ルールの変更箇所をプレシジョンで確認する事をお薦めします。

【検定・研修会日程】
1. SAJ-TD セミナー：2018 年 10 月 21 日　NTC アスリートビレッジ
2. セッター研修会（クリニック）：2018 年 11 月 16-18 日　野沢温泉スキー場
3. セッター検定会：2019 年 4 月 12-14 日　野沢温泉スキー場
4. ブロックセッター検定会・旗門審判員検定会等は、後日お知らせします。

【FIS レース参加・派遣】
1. FEC/FIS 中国シリーズの申込み手順 （資料）
2. 海外 FIS ユースレース派遣
   ① 18-19 シーズン：昨年通りの申請方法
   ② 19-20 シーズン：SAJ 強化方針により、変更の可能性あり
3. 国内 FIS レース参加資格 （資料）
   ① 女子参加資格の撤廃
   ② ユースランキングによる有資格者の、上位 5 名の 12 月レースのプロテクト

【TD・レフェリー】
1. 18-19シーズンより、A級大会（FISを含む）の競技委員長は、TD資格取得者もしくは該当シーズンのTDセミナー受講者とします。
   - 受講修了証を発行します
2. 18-19シーズンより、A級大会（FISを含む）のレフェリーはA級セッター資格者、B級大会のレフェリーはB級セッター資格者以上とします。
3. 19-20シーズンより、SAJ公認大会のTDは開催県以外の登録者とします。
   - 北海道は北海道外もしくは北海道ブロック内他エリアの登録者

4. 19-20シーズン（19年春受験登録）よりTD受験資格の変更する予定です。
    - 競技会役員経験者からの受験を可能とします。承認され次第、通知します。

【ルール･コース公認】

1. スキー用品ルールチャート　（資料）
2. スピードスーツ（ワンピース）プロンブシステムの18-19シーズンまでの延長（ICR 606.2.2）
3. 国内大会の標高差について、ルール変更は行わない
    - FIS-ENLの活用
4. FIS-ENLについては、標高差等がSAJルールに適合しなくとも、SAJ-B級公認レースとして認定する。

【計時･計算】

1. 19-20シーズン新ポイントシステム　（資料）
    - 18-19シーズンは従来通り
2. F値の変更1
3. タイマー同期方法の変更
4. ハンドタイミング計算方法の変更確認

【ユースレース】

1. ユース開催要領　（資料）
2. 雫石SGキャンプ等、SAJ主催練習会の取りやめ。（大会主催者が実施することは妨げない）
3. 19-20シーズンより、SAJ公認K1ユースレースの実施取りやめ
    - JOCジュニアオリンピックのK1レース開催については、SAJ内で協議し、追って報告する。
4. ユースレースの学校休業期間以外の、平日開催の自粛

【大会運営】

1. 大会カレンダー　（資料）
2. 主要大会役員　（資料）
3. 公認大会申請方法
    - 全中、インターハイ、インカレの日程決定を、国体開催までにお願いしたい。
    - 大会開催制限　（資料）
4. 主要大会開催地立候補
    ①　全日本ジュニア選手権（各技術系･高速系）
    ②　FECジャパンシリーズ　2-3会場
5. 主要大会におけるIDの発行
    ①　来会調査に基づき、厳格に発行していただきたい。
    ②　19-20シーズンより、OSに関しては独自IDの導入を検討

【その他】

1.　国内FIS数の削減　（資料）

①　19-20シーズンより、国内開催FISレース数の10%程度の削減を行う可能性がある

（ア）十分な質が確保されていないレースがある

（イ）参加者数が極端に少ないレースがある。

（ウ）FIS-TDへのアンケート調査の実施

②　スケジュールバッティングの回避

③　カテゴリーの柔軟な運用による、参加者確保

2.　その他

ＦＩＳ秋季会議報告

アルペン担当　中村実彦

期間：2018 年 09 月 24 日～30 日

担当委員会：アルペン委員会　小委員会：TD、Rule、Course、Classification、FEC

■ Alpine 委員会

アルペン委員会では、以下の各小委員会より上程された案件を理事会に上程するとした。尚、次回の理事会は 2018 年 11 月 15 日頃開催される予定であり、理事会で決定された後に「Precision for Northern Hemisphere」として発行される。理事会で調整を求められることは少ないが正式決定はこの段階にて確定することを予め、承知置き頂きたい。(以下、関係個所抜粋)

・ **エクゼクティブボード**
エクゼクティブボードは、将来の世界選手権やオリンピックにおいてアルペンコンバインドをパラレルレース（個人種目）と入れ替えることに同意した。

・ **クラシフィケーション委員会**
パラレルレースのリミット

4.4.10　予選ランでの FIS Point

~~ヨーロッパカップ、~~KO、そしてパラレル予選ランでも FIS points を計算する。予選を通過してもパラレル競技に出走しなかった選手には FIS point を付与しない。
- 各加盟国連盟は以下の数のパラレル競技を企画できる。
- 各国選手権大会とナショナルジュニア選手権のカテゴリーの男女毎に１競技ずつ。
- 各 FIS カテゴリーでは、男女毎に２競技以上してはならない。
- エントリーリーグカテゴリーに競技会数に制限を設けない。

・ **ＴＤ委員会**
委員会では多くの要望を受けて、Jalle Forsmark 氏 (SWE)を委員会の名誉委員とすることを決めた。

・ **ルール委員会**
ICR ドローン (UAV)についてのルールを以下の様に委員による投票で上程を決めた。

616　マイクと特別な電子機器

616.1　スタート及びフィニッシュエリア内、また、囲われたコースエリア内で、開催者とジュリーの同意なしに設置したマイク（“移動取材用マイク” やいわゆる“つり下げマイク”、カメラやその他の技術装置にセットされたマイク）を使用することは、レース中だけでなくトレーニング中も禁止である。

616.2　ドローンやクアドロコプター等の無人航空機（Unmanned Aerial Vehicle/UAV)は、インスペクション、トレーニングラン、そして競技中に競技コースエリア上空では固く禁止する。但し、地域の法律や競技コースエリア所有者による禁止行為を強要する書類を考慮したジュリーと主催者の承認を得た場合を除く。競技コースエリアはジュリーが指定する。違反者は ICR 第 223 条に基づいてジュリーによる制裁対象者とする。

各小委員会での協議、審議報告

■　ＴＤ委員会

・　TD Education、TD コミッショナーによる Update を実戦形式で行った。
安全性に対するポリシーについての Statement が発行されてるので確認する事も含まれている。

・　コースセッターに対しても安全に配慮したコースセットに協力、或いは指導も必要になる事もジュリーインスペクション、又は事前セットの段階で同行して注意する事も考慮するようにと意見があった。

・　IT 担当から、タイミングの EET システム、競技中のシンクロナイゼーションについての変更などの説明があった。

・　安全対策について､より注視していく方向で進めることを再確認した｡USSA の Paul VanSlike 氏から安全性についてプレゼンがあり、予期できない事、想定或いは想像を超えることが起き得るとの考え方が重要と確認しあった。

・　Para Event について、FIS との連携を深めていくことで IPC（国際パラリンピック委員会）よりプレゼンがあった。昨シーズンより PARA 競技は、IPC の TD 制度が廃止され、FIS TD が行うようになった。

■　Classification 委員会

・　特別クオータの承認。
ＳＡＪの要請により、以下の通り委員会にて承認された。
Wanlong FIS L 30、M 70
Wanlong FEC L 40、M 70
Thaiwoo FEC L 40、M 70

・　イギリス（GBR）より特別クオータの要請が FIS Office に寄せられて審議案件となったが本来、この手続きは事前に主催者（NSA と現地 OC)との事前協議を前提としているのでこの時点では棄却した。

補足:先週末の FIS TD Update の折に FIS Office からのアドバイスもあって今後、FEC において FEC メンバー以外の特別クオータの受け入れはしないようにすると申し合わせた。FEC メンバー以外の NSA の選手は FIS　ポイントの取得を目的としており、基本クオータ以上の増員は FEC には不要であるとの見解によるもの。

■　ルール委員会

・　ドローンの対応について検証した。委員の大半は上程した ICR の条文通りであるが、ジュリー決定として流用し過ぎると仮に事故が発生した場合、法的にも責任が大きくなるので、注意が必要である。また、最近は投雪やレーザーポインタなどでの滑走中の妨害行為も発生しているので、軽視できない。

■　コース公認委員会

・　委員長から
新しいインスペクションレポートが順調に機能していることにＦＩＳとしても嬉しく、インスペクター諸兄の協力に感謝する。今後はオンライン化に向けて整備を進めるので、委員（各 NSA）からの意見も挙げて欲しい。

・ ワールドカップ及びコンチネンタルカップのレースディレクターからの報告。
先シーズンでは死亡事故も発生したのでたいへん辛い状況であった。
その内、1 件はトレーニングスロープで発生しているが特にスピード系においてはトレーニングスロープにしてされる場合は、最低限でもしっかりとした安全対策とコーチらが現場にいるなどの管理を徹底して欲しいと希望した。
競技中の事故においては、**Ａネットに取り付けるスリップスカートの摩擦抵抗**を下げる取り組みをサプライヤー（製造メーカー）と話し合いを進めており、追って連絡をする。

・ コースの有効期限の起算日について、11 月 1 日を起点とすることで委員会として賛成した。

・ 有効期間について
技術系１０年、スピード系 5 年は現状でもかなり長期間であり、その間にコースの管理者、経営者、所有者などが変わってしまう事も増えているので改変を求める声もあるが、加盟国連盟の規模や管理能力にも差があることも考慮しながらも現状維持で進めながら、インスペクターを中心に管理を進めて頂くようにお願いしたいと留められた。

・ 今後、先進的コースの視察を要望する声が上がっていることについて

ここ数年、複数のスイス国内の施設を視察させてもらっているが、一部に集中することから経費負担をお掛けしていることに申し訳なく思っている。それでも実施の有効性と希望が多く伝えられるので、今後は、参加者の金銭的負担も含め、希望を募って展開することを考えて行く。

・ インスペクターとして、自己啓蒙を図ることについての重要性について議論した。

インスペクターはＴＤの資格者ばかりでもなく、また、必ずしもワールドカップに係る者ばかりではないので、現場の状況を完全に把握できないことも多い。また、所属加盟国連盟の地理的環境から検討をすべきである。

一部からは、写真や動画、報告書など各種のデータを委員長宛に送ってもらい、今後もプレゼンテーションなどに役立てたい。

一部の委員からは、ワールドカップの水準で物事を考えるのは資金面からも現実的ではない。Level３レース以下の水準のレースでも安全性が保障されると環境づくり、現場の研修などを推進して欲しいとの委員長からの発生に委員会が賛同した。

・ コース幅、フィニッシュエリアの幅と長さ、夫々に再考する事が求められる。今後の取り組みとして、加えてインスペクターの増員、再公認コースを中心に安全設備の確認（管理）と安全対策などへの研修を強化することを求められることに委員会で了解した。

以上

平成 30 年 10 月 12 日

加盟団体アルペン担当者　各位

公益財団法人　全日本スキー連盟
競技本部長　　皆川 賢太郎

2018-2019 中国 FEC・FIS レースのエントリーについて

標記の件につきまして、参加希望がある場合は下記の通りエントリーの手続を行ってください。

1.　大会日程（中国）

	期　日	場　所	カテゴリー	種目	スペシャルクォータ
					男子・女子
A	2018 年 11 月 26 日～27 日	Wonglong resort	FIS	男女 SL×2	70・30
	2018 年 11 月 28 日～29 日	Wonglong resort	FIS	男女 GS×2	70・30
B	2018 年 12 月 4 日～5 日	Wonglong resort	FEC	男女 SL×2	70・40
	2018 年 12 月 6 日～7 日	Wonglong resort	FEC	男女 GS×2	70・40
C	2018 年 12 月 10 日～11 日	Taiwoo resort	FEC	男女 SL×2	70・40
	2018 年 12 月 12 日～13 日	Taiwoo resort	FEC	男女 GS×2	70・40

※女子クォータについては設定がありますが、参加者総数が 140 名になるまでクォータに関係なくエントリーできます。

2.　エントリー締め切り

A・B・C 日程（Wonglong･Taiwoo 会場）

第 1 次集約　各チームから、都道府県連盟・学連代表者への申込期限　2018 年 10 月 26 日（金）

第 2 次集約　都道府県連盟･学連から、アルペン委員会への申込期限　2018 年 11 月 1 日（木）

最終集約　アルペン委員会から、SAJ 中国ｼﾘｰｽﾞｴﾝﾄﾘｰ責任者への申込期限　2018 年 11 月 5 日（月）

海外 FIS レースの申請は、本来 2 週間前が締め切りですが、クォータ調整の必要性から上記の通りとします。エントリー締め切り後にクォータの調整を行い、各加盟団体にエントリーリストを送付します。

3.　申込方法

①添付のエントリーフォームに書式に必要事項を記入してメールで送付してください。
FIS コード番号等、必要事項を記載していない場合は受け付けません。
②エントリーは各都道府県連･大学ごとに行ってください。メーカーチーム･個人での申し込みは受け付けません。
③渡航、宿泊、VISA 申請（必要な方のみ）は各自手配となります。
④TCM には所属の代表者、もしくは、個人参加の場合は当該選手に参加していただきます。

4.　エントリー方法フロー（手順）

各チーム取りまとめ → 第１次集約 都道府県連盟・学連代表者取りまとめ 申込期限 10/26(金) → 第２次集約 アルペン委員会取りまとめ申込期限 11/1(木) → 最終集約 中国シリーズ責任者取りまとめ申込期限 11/5(月)

第１次集約　加盟団体（都道府県スキー連盟･学生スキー連盟）

第２次集約　アルペン委員会申込先

学生スキー連盟　→　岡澤研太（学連）　：okzwknt@mint.ocn.ne.jp
その他の都道府県連盟　→　山口浩二（石川県）：yamaguck@seiryo-hs.jp

最終集約

中国ｼﾘｰｽﾞｴﾝﾄﾘｰ責任者：滝下靖之（ナショナルチームセクレタリー）
メールアドレス：takishita.yasuyuki@ivory.plala.or.jp

5.　クォータ調整

① SAJ より各県連に通知した基準に沿ってエントリー選手を決定し、各加盟団体に通知します。
② 国際スキー連盟、中国スキー連盟から承認されているクォータは上記の通りです。
ランキング下位の選手は、クォータからもれる可能性がありますのでご了承ください。
③ 参加を希望する選手は、発行されている国際ライセンスを、必ず現地に携行してください。携行していない選手は出場できません。また国際ライセンスが発行された場合であっても、クォータからオーバーした場合は出場できません。
④

SAJ30 競第 934 号
- 当該年度の SAJ 会員登録、SAJ／FIS 競技者登録を完了した者
- 競技種目別の許可基準(別紙参照)を満たす者
- 大会出場枠(クオータ)を超えた場合は、次のエントリー優先順位に同意する者

※「ライセンス取得=出場枠(クォータ)の保証」ではない

1. 2018/2019 シーズン SAJ 遠征派遣メンバー
2. 2018/2018 シーズン SAJ 強化指定選手
3. FIS/SAJ ポイントランキング順（当該大会の適用リストによる）

以上

中国 FIS レースのエントリーリスト作成について

参加希望者は、添付のエントリー書式に必要事項を記入し、メールで申し込みをしてください。

作成の手順

記載はすべて必須です。記入漏れの無いよう、全ての項目を記入してください。

必要事項が記載されていない場合は、受付をいたしませんのでご注意ください。

1. 加盟団体名をプルダウンで選んでください。
   （件名のところをクリックするとプルダウンがでます）

2. エントリー責任者名を入力してください。

3. エントリー責任者の PC アドレスを入力してください。

4. 各選手の FIS 登録番号を入力してください。
   （氏名・加盟団体・所属・生年が自動的に記載されます）

5. 所属団体を入力してください。

6. レース日程の欄に、参加する場合は○、参加しない場合は×を入力してください。
   各日付の下に、参加者数が自動的に集計されますので、確認してください。

7. ファイルを送信する際は、ファイル名の最後に__（加盟団体名）をつけて送付してください。

   （例）中国_FIS&FEC_万龍_男子_No.4_○○県

２０１８－２０１９　国内公認大会出場資格【基本枠】

改訂版

● 2018-2019シーズン　以下に掲げる国内公認大会は、各大会エントリー締切日までに発表されたポイントリストによって出場資格を得ることができる。
エントリーオーバーした際の優先順位を確実に確認してください。
今年度よりFISレース（level３）以下のレースに関して女子の参加基準は撤廃する。エントリーオーバーした際の優先順を確認してください。

参加資格種別			カテゴリー	FEC		NC		FEC		FIS / NJC※2 / NJR※3			
			対象	FEC技術系（日本開催）		全日本選手権（技術系）		全日本選手権（FEC SG・AC）		国内FISレース/全日本ジュニア選手権※2/NJR（技術系）		国内FISレース/全日本ジュニア選手権※2（SG・AC）	
				男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	**女子**	男子	**女子**
ポイント	1	ＦＩＳポイント（ＳＬ・ＧＳ）	共通	45点	60点	55点	70点	55点	75点	60点	**FIS登録者**	60点	**FIS登録者**
ポイント	2	ＦＩＳポイント（AC・SG）	共通					AC　400点 SG　150点	SG　250点		**FIS登録者**	AC　400点 SG　180点	**FIS登録者**
ポイント	3	ＳＡＪポイント（ＳＬ・ＧＳ）	共通			55点	70点	55点	75点	60点	**FIS登録者**	60点	**FIS登録者**
ポイント	3	ＳＡＪポイント（ＳＬ・ＧＳ）	高校			55点	70点	55点	75点	70点	**FIS登録者**	70点	**FIS登録者**
ポイント	4	ＳＡＪポイント（AC・SG）	共通					AC　400点 SG　150点	SG　200点		**FIS登録者**	AC　400点 SG　150点	**FIS登録者**
ポイント	4	ＳＡＪポイント（AC・SG）	高校					SG　170点	SG　250点		**FIS登録者**	AC　400点 SG　180点	**FIS登録者**
ポイント	5	SAJポイント（SL・GSL）	2002年生まれのみ							100点	**FIS登録者**	100点	**FIS登録者**
				上記資格では、各大会のエントリー締切日までに発表されたポイント・ポイントランキングで出場資格を得る									
ユース考選	6	ユースランキング（2002年生まれ）	2017-2018シーズン 全国ランキング **（プロテクト）※ﾌﾟﾛﾃｸﾄは12月のみ**							２０位 **(5名)**	**ーーー (5名)**	２０位 **(5名)**	**ーーー (5名)**
競技会順位	7	特別枠	全日本選手権			１０位 ※1	１０位 ※1	１０位 ※1	１０位 ※1				
競技会順位	7	特別枠	全日本学生選手権（１部総合）			１０位 ※1	１０位 ※1	１０位	１０位				
競技会順位	7	特別枠	全日本学生チャンピオン大会（SG・AC）					１０位	１０位				
競技会順位	7	特別枠	全国高校大会			１０位 ※1	１０位 ※1	１０位	１０位				
競技会順位	7	特別枠	全国高校選抜大会			１０位 ※1	１０位 ※1	１０位	１０位				
競技会順位	7	特別枠	全国中学校大会			５位 ※1	５位 ※1	５位 ※1	５位 ※1				
競技会順位	7	特別枠	全国ジュニアオリンピック			５位 ※1	５位 ※1	５位 ※1	５位 ※1				
その他	8	推薦枠	ＳＡＪ競技本部推薦（プロテクト）	１０名（５名）	１０名（５名）	１０名（５名）	１０名（５名）	１０名（５名）	１０名（５名）				
その他	8	推薦枠	開催県枠（プロテクト）	５名（３名）	５名（３名）	５名（３名）	５名（３名）	５名（３名）	５名（３名）	（30名）	**(30名)**	（30名）	**(30名)**
その他	8	推薦枠	都道府県推薦			有資格者を有さない加盟団体には男女各種目1名の出場枠を与える（プロテクト）				有資格者と開催県枠で140名を満たしていない場合のみ出場できる			
その他	8	推薦枠	学連推薦							有資格者・開催県枠（ﾌﾟﾛﾃｸﾄ）・都道府県推薦で140名を満たしていない場合のみ出場できる			

※1 前年度順位　　※2 U21の選手以外は、海外選手も含め25名まで出場できる　　※3 U21の選手以外は出場できない。海外選手は25名まで出場できる。

◆ エントリーオーバーした場合の優先順位

①-1 ユースランキング（プロテクト5名）・・・ただし12月開催のレースのみ

①-2 開催県推薦選手（プロテクト30名）　※開催ブロック内の選手に限る。（開催ブロック出身学連登録選手も含む）

② 男子：有資格者（当該種目FISポイント順、FISポイントを有していない場合はSAJポイント順）

女子：当該種目FISポイント順、FISポイントを有していない場合はSAJポイント順

③ 開催県推薦選手 ※①のプロテクト30名以外のブロック内登録選手。（開催ブロック出身学連登録選手も含む）

④ 都道府県推薦選手 ※当該種目FISポイント順。FISポイントを有していない場合はSAJポイント順

⑤ 学連推薦選手

◆ AC種目においてエントリーオーバーした場合の優先順位

基本的に上記優先順位で決定するが、

① 開催県推薦選手（プロテクト30名）

② 有資格者≪ACポイント所有者≫

で最大人数を満たさない場合は、最初に実施する種目のポイントを次に優先する。

◆ SG種目においてエントリーオーバーした場合の優先順位

基本的に上記優先順位で決定するが、

① 開催県推薦選手（プロテクト30名）

② 有資格者≪SGポイント所有者≫

で最大人数を満たさない場合は、GS種目のポイントを次に優先する。

◆ エントリーリーグ

① 参加資格はFIS登録済の者とする。

② 開催県推薦は、30名をプロテクトする。

（開催県選手を優先とし、開催ブロックの選手、開催ブロック出身学連登録選手を含む）

③ 140名のエントリーを超えた場合は、FISポイント下位の者（FISポイントない場合はSAJポイント下位の者から）

から参加資格を失う 。

◆ エントリーについて（FIS公認大会・B級公認大会）

① 各大会のエントリー締切日は、第1回チームキャプテンミーティングの10日前とする。

開催地組織委員会は、要項に明記すること。

② 学連所属選手は各大学からのエントリーを認める。

③ 都道府県推薦枠には学連登録選手を含まない。

④ 学連ブロック推薦の受け入れの有無は開催地組織委員会が決定し要項に記載する。

⑤ ③及び④について、推薦状の提出は不要です。

⑥ エントリーは有資格者と合わせて、各都道府県、大学毎に申し込みをする。

個人・高校・中学・クラブからの申し込みは受け付けない。

⑦ 都道府県推薦、学連推薦はエントリーフォーム氏名欄に「氏名**（推薦）**」と明記すること。

⑧ エントリー締め切り後、エントリーが上限まで満たさない場合は追加エントリーを認める。

（必ず各都道府県連に通知、または開催県ホームページに掲載する）

◆ 大会スケジュールの変更とキャンセルについて

① 大会スケジュールの変更および中止の連絡は、最初のチームキャプテンミーティングの4日前までに

全日本スキー連盟事務局に報告しなければならない。

② 加盟団体・選手・チームキャプテンへの連絡は、大会組織委員会が責任を持って行う。

③ 開催の是非については、TDも判断に加わる。

年齢区分に関する国内運用ルール（2018/2019 シーズン）

SAJ 競技本部　ルール・公認施設小委員会　2018 年 7 月 1 日

※年齢区分一覧

生年	1997		1998		1999		2000		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008
学年	大4早	大3	大3早	大2	大2早	大1	大1早	高3	高3早	高2	高2早	高1	高1早	中3	中3早	中2	中2早	中1	中1早	小6	小6早	小5	小5早
FIS区分	FIS		U21 (FIS)						U18 (FIS)				U16 (Youth)				U14 (Youth)						
SAJ区分	シニア														K2					K1			
国体区分	成年A組							少年組															

＊ SAJ 公認大会における競技用品ルールならびに競技ルールは、K2 は U16、K1 は U14 ルールを適用する。ただし SAJ ユース競技会開催要領を優先する。
＊ 中 3 早生まれ、中3、高1早生まれの各競技者は、SAJ-B 級大会ならびに、国体少年組に出場できる。その際は、シニアのマテリアルルールが適用される。
＊ 高 1 早生まれの競技者は、JOC ジュニアオリンピックカップ K2、全日本ジュニア選手権（スピード系）に出場できる。ただし全国中学には出場できない。

スキー用具に関する国内運用ルール（2018/2019 シーズン）

SAJ 競技本部　ルール・公認施設小委員会　2018 年 7 月 1 日

※スキーの長さ及びラディウス一覧

種　目	DH				SG				GS				SL	
	女子		男子		女子		男子		女子		男子		女子	男子
カテゴリー／大会	スキー長（cm）及びラディウス（m）　*表記はどちらも最小値													
	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長
COC	210	50	218	50	205	40	210	45	188	30	193	30	155	165 *1
FIS / NC	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	188	30	155	165 *1
SAJ公認大会 （ユース競技会以外）	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	188	30	155	165 *1
SAJ公認大会 （K2 (U16)）	–	–	–	–	175 183以上 推奨*2	27 30以上 推奨*2	175 183以上 推奨*2	27 30以上 推奨*2	188以下	17	188以下	17	130	130
SAJ公認大会 （K1 (U14)）	–	–	–	–	スキー長・ラディウス共に 体格、体力、技能に適応したスキー				130 188以下 推奨*2	14 17以上 推奨*2	130 188以下 推奨*2	14 17以上 推奨*2	130	130

*1：U18 の 1 年目は SL において、−10 ㎝の許容差を認める。 *2：SAJ カテゴリーのみ。国際大会では FIS に準ずる。 *3：スキー長はスキー板に記載されている数値で判断する。

※スキー用具適用一覧（抜粋）

種　目			DH		SG		GS		SL	
			女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
1.2.1.2.1	ビンディング下部分の もっとも細い部分の幅	シニア	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	63mm以上	
		ユース	–	–	65mm以下	65mm以下	65mm以下	65mm以下	–	
1.2.1.2.2	ビンディングより前方部分の 最大スキー幅	シニア	95mm以下	95mm以下	95mm以下	95mm以下	103mm以下	103mm以下	–	
		ユース	–	–	–	–	–	–	–	

スキー高	スキー板＋プレート＋ビンディング	50mm以下　全種目、全カテゴリ、男女共通
ブーツ高	すべてのハードおよびソフトパーツを含む ヒールの底部からスキーブーツソールまでの間隔	43mm以下　全種目、全カテゴリ、男女共通
ヘルメット	全てのFIS及びSAJ公認大会では、新規格対応表示（FISステッカー[RH2013]）が明示されているヘルメットの着用を義務とする。 新規格ヘルメットルールはDH、SG、GS競技に適用される。 公式用品ルール6.2.4によりヘルメットにはメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。 SLでは、ヘルメットの耳部分のソフトパッドの使用を認めるが、EN1077またはASTM2040認証が必須である。（SAJレースにおいては推奨） ナショナルエンブレムの貼付はナショナルチーム及び日本代表チームとして海外で競技に参加する場合は必須とする。	
ワンピース	FISレースのDH、SG、GSで使用される競技スーツはFIS規定の空気透過率基準をクリアしたスーツのみ使用できる。 新規格適合スーツにはプリントの適合ラベル[CS2015]が標記されるが、プロンビング(FIS冠)によるスーツも2018/2019シーズン終了時まで使用することができる。（新スーツへの完全移行が1年先送りとなった。） 新規格スーツが適用されるのは、オリンピック・世界選手権・ワールドカップ・ジュニア世界選手権・コンチネンタルカップであり、FISレベル及びユース大会は適用より除外される。 ※DH用スーツは、プロテクター（パット）を競技スーツと一体にすることはできない。	

2018/9/16 SAJアルペン委員会

2018-2019 SAJポイント(アルペン) ペナルティ表

SAJカテゴリー	レースレベル	加算値	ミニマムペナルティ	マキシマムペナルティ
FEC	1	0	6	999
全日本選手権	2	2	8	999
FIS・NJC・NJR・UNI・SAJ-A(YH除く)	3	3	9	999
ENL・SAJ-B(YH除く)	4	13	40	999
SAJ-A(K2)・B(K2)	5	0	50	999
SAJ-A(K1)・B(K1)	6	0	70	999

種目	F 値	マックスポイント	
		レベル1～5	レベル6(K1)
DH	1250	310	-
SL K1コンビ	730	145	280
GS	1010	200	310
SG	1190	250	330
AC	1360	250	-

※参考(2018-2019 FIS No.3)

Alpine Skiing

2018/2019

3rd FIS points list 2018/2019

Valid from 06-09-2018 to 26-09-2018

Category/Catégorie/Kategorie	Race level	Minimum penalty for 2018/2019	Minimum penalty for calculation BL 2020	Maximum penalty
OWG,WC,WSC	0	0.00	0.00	0.00
COM	0	0.00	0.00	4.00
ANC,EC,ECOM,FEC,NAC,SAC,UVS,WJC	1	6.00	15.00	999.00
NC	2	8.00	20.00	999.00
AWG,CISM,CIT,CITWC,CORP,EQUA,EYOF,FIS,FQUA,JUN,NJC,NJR,UNI,YOG	3	9.00	23.00	999.00
ENL	4	40.00	60.00	999.00

MEN							GENERAL		LADIES						
ADDER						Z-Value	Men/Ladies		ADDER						Z-Value
Disc.	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4		F Value	Max points	Disc.	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	
DH	0	0	2	3	13	0.00	1250.00	310.00	DH	0	0	2	3	13	0.00
SL	0	0	2	3	13	0.00	730.00	145.00	SL	0	0	2	3	13	0.00
GS	0	0	2	3	13	0.00	1010.00	200.00	GS	0	0	2	3	13	0.00
SG	0	0	2	3	13	0.00	1190.00	250.00	SG	0	0	2	3	13	0.00
AC	0	0	2	3	13	0.00	1360.00	250.00	AC	0	0	2	3	13	0.00

2018/2019 シーズン
SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領

1　概要

1. 大会名称を「ユース競技会」とする。
2. SAJ 公認アルペンユース競技会には、小学校 5 年生から高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。また、年齢と学年により、K1 と K2 に区別される。
3. K1 カテゴリーは小学校 5・6 年生の競技者、K2 カテゴリーは中学生と高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。
4. 競技ルールは、FIS 国際アルペン競技ルールと本要領に基づいて行われる。
5. 競技ルールと競技用具ルールは、K2 カテゴリーは U16、K1 カテゴリーは U14 を適用する。
   ただし、本要領に定めることを優先する。
6. 競技会公認料は SAJ 規約規程集、各種公認・登録等料金一覧表の通りとする。

2　出場資格について

1. SAJ 競技者登録が完了され、大会要項に記載されている出場資格を満たしている競技者。

3　種目について

1. ICR 608.6.1 に準ずるものとする。
2. SG の方向転換数を 8～12%とする。
3. GS について
   1) K2 は 2 本レースとする。K1 は 2 本レースが望ましい。
   2) 方向転換数を 13～18%とする。
   （ﾀｰﾆﾝｸﾞﾎﾟｰﾙ間 MAX 27m、ﾃﾞｨﾚｲﾄﾞｹﾞｰﾄｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝの場合はﾃﾞｨﾚｲﾄﾞｹﾞｰﾄから次のﾀｰﾆﾝｸﾞﾎﾟｰﾙ間 MAX27m）
4. SL について（K1・K2 共通ルールとする）
   1) 方向転換数を 32～38%+/-3 とする。
   （ﾀｰﾆﾝｸﾞﾎﾟｰﾙ間　K1・K2:7m～11m、ﾃﾞｨﾚｲﾄﾞｹﾞｰﾄｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝのﾀｰﾆﾝｸﾞﾎﾟｰﾙ間 K1・K2:12m～15m）
   2) 最少 3 箇所、最大 6 箇所のヘアピンと、最少 1 箇所、最大 3 箇所のヴァーティカルコンビネーション（最少 3～最大 4 つのゲートからなる）を設置しなければならない。最少 1 箇所、最大 3 箇所のディレードゲートコンビネーションを設置しなければならない。

4　使用コースについて

1. SAJ 公認コースとする。
2. 各種目の標高差は下記の通りとする。（連絡会議での変更を撤回し、17-18 シーズン通りとする）

   ~~1) SG:K1 は 250m 以下、K2 A 級 B 級共通 250m-450m~~

   ~~2) GS:K1 は 140m-200m、K2 A 級は 200m-350m、K2 B 級は 200m-250m~~

   ~~3) SL:K1 は 80m-120m、K2 A 級は 100m-160m、K2 B 級女子は 80m-120140m、K2 B 級男子は 80m-140m~~

   ~~4) KB は 140m-200m~~

   1)　SG：K1 は 250m-400m、K2 は 250m-450m

   2)　GS：K1 は 140m-300m、K2 は 160m-350m

3)　SL：K1/K2 共通 100-160m

4)　KB は 120m-200m

3. SG は GS 公認コースでも開催できる（ただし、ルールや安全性を満たしていること）。
4. GS は SL 公認コースでも開催できる（ただし、ルールや安全性を満たしていること）。
5. KB は、GS 公認コースを原則とするが、SL 公認コースでもできる（ただし、ルールや安全性を満たしていること）。

5 エントリーについて

1. エントリーは各都府県単位とする。このことは、大会開催要項に明記されなければならない。

6 スタート数の制限ついて

1. 中学校 3 年生・高校 1 年生早生まれは制限なしとする。
2. 技術系（GS/SL）合計、小学校 5・6 年生は 8 レース以内、中学校 1・2 年生は 10 レース以内、とする。スタート数が順守されているかの確認は各都道府県で行う。
3. K1、K2 共にスピード系（SG）は、制限なしとする。
4. 「SAJ ポイントレースにおいて公式成績表が発行され、1 本目の DNS 以外で名前が掲載されている場合」スタートしたものとする。DNQ、DNF、2 本目の DNS もスタートとみなされる。レース/ペナルティーポイントが選手に付与される形でレースが成立しない場合は、スタートを切っても、スタート数にカウントされない。レースが天候等により、途中キャンセルされた場合は、スタート数にカウントされない。
5. 項目 6-2.に違反した場合は、当該選手の違反したレースでの取得ポイントを無効とする。但し、違反を知りながら参加する等の悪質な違反者に対しては次年度 1 月 31 日まで SAJ 公認大会のエントリーを禁止するとともに、同期間、FIS ライセンスを発行しない。
6. 全国中学、全日本ジュニアスキー選手権（中学生）SG ならびに全日本選抜ジュニアスキー選手権（中学生）SG（以下雫石 SG と表記）、JOC ジュニアオリンピックカップ、予選会（全国高校、全国中学、国体）のスタートはこの制限に含めない。

7 スタート順について

1. 18-19 各ブロックのユース競技会については、次の通りとする。

K1：フリードローとする。

K2：SAJ ポイントを採用し、上位 15 名タイまでをドロー、以降はポイント順とし、ノーポイントはドローとする。
＊但し全国中学は含まない。

8 K1・K2 SAJ ポイントについて

1. 競技者には、SAJ ポイントをつける。FIS ルールに基づいてペナルティーポイントを計算し、計算ペナルティを採用する。一方、規定のミニマムペナルティー値（下表）を下回った場合は、ミニマムペナルティー値をペナルティーポイントとして採用する。

SAJ カテゴリー	Race Level	ミニマム ペナルティ	マキシマム ペナルティ
SAJ-A（K2）・B（K2）	5	50．00	999．00
SAJ-A（K1）・B（K1）	6	70．00	999．00

種目	F 値	Race Level 1～5 マックスポイント	Race Level 6(K1) マックスポイント
SG	1190	250．00	330．00
GS	1010	200．00	310．00
SL(K)	730	145．00	280．00

2. 16 歳以上の B 級大会（B 級公認各都道府県選手権大会も含む）と併催する場合、K1、K2 は、ユースルールに従ってレースを実施する。K1、K2、16 歳以上のブロックでスタートさせることにより、SAJ ポイントが認められる。

9 JOC ジュニアオリンピックカップについて

1. 種目は、K1 は SG と SL とし、K2 は GS と SL とする。
2. 出場資格は次の通りとし、2 種目出場とする。

K2 1）各都道府県に割り当てられたエントリー数内で各都道府県で選抜された競技者

2）当該シーズンの全国中学校スキー大会各種目 10 位以内の競技者

3）当該シーズンの全国高校スキー大会各種目 20 位以内で、高校 1 年生早生まれの競技者

4）当該シーズンの雫石 SG で 3 位以内の競技者

5）当該シーズンのナショナルチーム U16 選手

6）開催地枠として、割り当てられた数＋2 名

7）17-18 本大会 K1 カテゴリにおいて各種目3位以内入賞者（中学1年生が対象）

K1 1）各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者

2）17-18 本大会において 10 位以内に入賞した小学校 5 年生に関しては次年度の本大会において特枠シードを与える。特枠シードを獲得した選手は出場権を得ると共に、該当種目の第 1 グループに加えて抽選を行う。

3）各種目上位 3 位以内入賞者（小学 6 年生）は次年度本大会 K2 参加資格を与える。

4）開催地枠として、割り当てられた数＋5 名

5）当該シーズンのナショナルチーム U16 選手

3. K2 のスタート順は、SAJ ポイントを採用する。

1）第 1 グループは 15 位タイまでで抽選を行う。

2）16 位以降はポイント順とする。

4. K1 のスタート順は、いくつかのグループに振り分けて、グループ内で抽選を行う。スタートランキングは各都道府県が決定する。
5. ここに定めること以外は、大会要項に従う。
6. JOC ジュニアオリンピックカップの開催地区と開催シーズンのローテーションは次の通りとする。

1）＜甲信越＞2019 年と 2020 年

2）＜北海道＞2021 年と 2022 年

3）＜東海北陸/南北関東/西日本＞2023 年と 2024 年

4）＜東北＞2025 年と 2026 年

7. 開催にあたっての条件は以下の通りとする。
   1) 3 月下旬（春休み期間中）で開催し、開催種目を安全に運営できること。
   2) 多様なコース設定が可能であり、コース状況が維持できること。
   3) 近隣に宿泊施設が十分にあること。交通の利便性が考慮されていること。

10 競技用品について

1. 選手が使用する用具は、2018 年 7 月 1 日 SAJ ホームページ掲載「2018-19 シーズンスキー用具に係る国内運用ルールについて」を参照のこと。
2. ヘルメットに関しては、17-18 に引き続き SAJ 公認大会においては、FIS ルールに従い義務付けとする。

11 大会主催者の責務について

1. この要領に定めること以外は、FIS ルールに則り、安全に運営しなければならない。
2. 選手の安全を確保するために、全種目で軽量ポール（25-28.9mm）を使用しなければならない。
3. 大会要項競技規則項目に ICR 等とともに、「SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領に基づく」を記載すること。またスタート数の制限に関する記述を入れること。

   ※スタート数の制限に関する記述の例

   「技術系（GS/SL）合計、小学校 5・6 年生は 8 レース以内、中学校 1・2 年生は 10 レース以内、とする。中学校 3 年生・高校 1 年生早生まれは制限なしとする。」と定められているので、各カテゴリーにおいてスタート数がオーバーすることのないようにすること
4. レース中にけが人が発生した場合は、指定のフォームを使用し、報告しなければならない。なお、報告書の作成は TD の業務である。

12 出場資格についての特記事項

1. SAJ 公認アルペン B 級競技会には、K1 および K2 の中学 1・2 年生の競技者は出場できない。
2. 中学 3 年生以上の競技者は、SAJ 公認アルペン B 級競技会ならびに国体少年男子の部に出場できる。その場合、16 歳以上の競技用品ルールに従わなければならない。
3. 高校 1 年生早生まれの競技者は、雫石 SG と JOC ジュニアオリンピックカップに出場できる。

2002年生まれFIS有資格者（ユースランキング）男子

平成30年10月19日作成

NO.	氏名漢	県連盟	所属	合計	4レース	全中						雫石ＳＧ						JOC					
						SL			GS			SG①			SG②			GS			SL		
				順位	合計	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P
1	中村 拓幹	群馬	沼田西中学校	1	115.5	12	8	23	2	2	28.5	1	1	30	1	1	30	5	4	27			
2	君島 王羅	栃木	塩原中学校	2	113	3	2	29	6	6	25	19	13	18	52	27	4	1	1	30	3	2	29
3	黒岩 樹生	北海道	東海大学付属札幌高校	3	107	6	5	26	4	4	27	2	2	29	8	6	25						
4	山中 新汰	北海道	札幌第一高校	4	98	23	15	16	5	5	26	33	24	7	44	22	9	6	5	26	2	1	30
5	青木 理恩	山形	日大山形高等学校	5	89				7	7	24	11	7	24	29	15	16	7	6	25			
6	谷口 皓生	岐阜	飛騨神岡高校	6	83	20	14	17	26	19	12	18	12	19	20	11	20	26	18	13	5	4	27
7	天野 絢登	北海道	東海大学付属札幌高校	7	81	38	24	7				8	5	26	41	21	10	11	9	22	10	8	23
8	鈴木 一生	東京	慶應義塾高校	8	80	4	3	28	42	26	5				22	12	19	3	3	28			
9	松本 充史	北海道	双葉高校	9	79	2	1	30	10	8	23	65			65			17	14	17	37	22	9
10	廣嶋 渓介	秋田	十和田高校	10	78	18	12	19	46	30	1	16	11	20	10	8	23	18	15	16			
11	菅原 陸翔	岩手	紫波第一中学校	11	74				19	14	17	27	20	11	9	7	24				12	9	22
12	斎藤 宇哉	北海道	東海大学付属札幌高校	12	73	15	10	21				15	10	21	38	19	12	41	28	3	23	12	19
13	我満 龍治	北海道	札幌SS PRODUCTS ｽｷｰﾁｰﾑ	13	70				1	1	30	34	25	6	63			34	22	9	8	6	25
14	中島 賢伸	栃木	足利工業大附属高校	14	66							22	15	16	7	5	26				9	7	24
15	進藤 拓海	北海道	東海大学付属札幌高校	15	59	10	7	24	13	10	21							22	17	14			
16	福士 聖弥	青森	東奥義塾高校	16	58				21	15	16	10	6	25	27	14	17						
17	宮澤 虎ノ介	北海道	双葉高校	16	58				15	11	20							29	19	12	6	5	26
18	桑原 太陽	長野	上田西高校	18	57.5				2	2	28.5							2	2	29			
19	峰村 岳臣	新潟	関根学園高校	19	55	8	6	25	23	16	15							20	16	15			
20	新村 龍司	長野	上田東高校	19	55				24	17	14	48			16	10	21	13	11	20			

※色付きの選手は現在申請手続き中のため昨年度の所属先を記載しています。

2002年生まれFIS有資格者（ユースランキング）女子

平成30年10月19日作成

NO.	氏名漢	県連盟	所属	合計	4レース	全中						雫石ＳＧ						JOC					
						SL			GS			SG①			SG②			GS			SL		
				順位	合計	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P	順位	02順	P
1	若月 夕果	北海道	北照高校	1	117							4	2	29	6	3	28	2	1	30	2	1	30
2	本田 陽菜	北海道	札幌第一高校	2	113.5	3	2	29	5	3	28	6	4	27	16	8	23	3	2	28.5	4	3	28
3	牧野 桃	新潟	八海高校	3	103	2	1	30	27	14	16.5	13	7	24	15	7	24	10	6	25			
4	干川 美空	群馬	嬬恋中学校	4	102				75			5	3	28	11	5	26	13	8	23	8	6	25
5	木村 凪子	千葉	国府台女子学院高等学校	5	101	6	5	26	18	10	21	15	9	22	4	2	29	12	7	24	25	10	21
6	遠藤 美咲	山形	鶴岡市立朝日中学校	6	98	5	4	27	10	6	25							22	11	20	7	5	26
7	髙橋 凜湖	秋田	角館高校	7	88.5							1	1	30	1	1	30	3	2	28.5			
8	前田 理利	北海道	双葉高校	8	86				2	1	30							5	4	27	3	2	29
9	渡邊 倭	東京	練馬中学校	9	82	23	11	20	15	9	22	26	12	19	23	12	19	20	10	21	45	17	14
10	吉野 恵実	長野	飯山高校	9	82				23	13	18	9	5	26	21	10	21	38	14	17	42	15	16
11	山本 天嶺	新潟	新井高校	11	78	4	3	28	14	8	23										6	4	27
12	宮川 侑子	青森	柴田女子高校	12	75	40	17	14	38	19	12	10	6	25	17	9	22	49	23	14			
13	鈴木 虹々	福島	若松商業高校	13	65.5	20	10	21				33	15	16	34	16	15	41	17	13.5	49	19	12
14	千葉 栞那	青森	青森山田高校	14	65							14	8	23	22	11	20	16	9	22			
15	麥島 凜乃	山形	日大山形高等学校	14	65				65	27	4	16	10	21	10	4	27	48	22	13			
16	池田 優香	新潟	妙高高原中学校	14	65	7	6	25										39	15	16	12	7	24
17	今井 香凜	長野	南牧中学校	17	57	14	8	23										43	19	12	24	9	22
18	山下 祐里奈	愛知	東海学園高校	18	56.5				27	14	16.5				43	19	12	54	24	15	47	18	13
19	村田 ひかり	北海道	富良野高校	19	53				8	4	27							8	5	26			
20	小嶋 咲良	長野	飯山高校	20	51				30	16	15							32	13	18	30	13	18
21	萩原 羽麗	群馬	片品中学校	20	51	50	21	10	42	21	10	35	16	15	32	15	16						
22	福岡 真子	東京	早稲田実業学校中学校	22	49				34	17	14				25	13	18				33	14	17
23	川原 穂乃果	長野	長野吉田高校	23	46	36	14	17	3	2	29												
24	外山 可乃	長野	中野立志館高校	24	44				12	7	24										26	11	20
25	栢本 涼	京都	立命館宇治中学校	25	43	32	13	18	36	18	13							47	21	12			
26	藤岡 まそら	長野	野沢温泉中学校	25	43	12	7	24										29	12	19			
27	北越 舞	北海道	夕張TSOﾚｰｼﾝｸﾞ	27	41							29	13	18							20	8	23
28	清水 鈴香	大阪	大阪中学校ｼﾞｭﾆｱｽｷｰｸﾗﾌﾞ	28	40.5	37	15	16	39	20	11							41	17	13.5			
29	西田 れいあ	埼玉	朝霞第三中学校	29	40				69	28	3	52	19	12	12	6	25						
30	田中 凜	石川	星稜高校	30	37	56	23	8	58	26	5	45	18	13	51	20	11						

※色付きの選手は現在申請手続き中のため昨年度の所属先を記載しています。

2018/10/10現在

2018/2019シーズン　SAJ公認競技会一覧

2018

12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
FEC			FEC (Wanlong CHN)								FEC (Songhua Lake CHN)																				
FIS																	阿寒 FIS SL FIS SL NJR SL					ぬかびら NJR GS NJR GS				NC全日本選手権(阿寒) 男GS 女GS SL					

2019

1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
FEC																															
FIS										FISぬかびら GS GS		FIS石川白峰(男のみ) SL SL						大山 B GS	FIS北海道選手権(朝里) SL SL YH GS FIS SL/Y SL FIS GS/YH SG	ENL田沢湖 GS GS						FIS北海道選手権(カムイリンクス) GS GS FISパインピーク(菅平) GS GS FIS花輪 GS GS		FISモンデウス SL SL		
SAJ								B/YH岩手県選手権 SL GS GS		B岐阜県SL(ほうのき) SL SL					B/YH RCCカップ(瑞穂H) GS GS B南北北海道高校(カムイリンクス) GS SL	B/YH宮城県選手権(オニコウベ) SL SL	B/YH青森県選手権(大鰐) SL GS		B新潟県選手権(八海山) SL B石川 GS GS	B山形県選手権(蔵王ライザ) GS		B山形県選手権(蔵王ライザ) SL	B群馬県選手権(尾瀬岩鞍) GS SL	B/YH奥神鍋 GS	B/YHサーティーワンCUP(奥神鍋) GS	B愛知GSL(ほうのき) GS GS			B関東高校(尾瀬戸倉) GS SL Bマックアース国境 SL SL	
ユース					YHぬかびら SL GS		YHほうのき GS SL			YH菅平ユース SL GS		YH関西Jr.(万場) SL	YH近畿Jr.(奥神鍋) GS GS						YH SNOW COUNTRY CUP(松之山) SG SL	YH鹿沢ユース SL				YH白馬少年 SL SL		YH かもい岳ユース SG SG YH 東北中学(オニコウベ) GS SL YH関東ユース(尾瀬戸倉) GS GS YH野沢Jr. GS		YH野沢少年 GS GS			

2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
WSC FEC		FEC全日本スピード系(志賀) SG			WSC 世界選手権(Are SWE)		FEC (Yong Pyong KOR) SL GS SG					FEC (Bears Town Resort KOR) GS GS SL SL						WJC(Val di Fassa ITA)							FEC花輪 GS GS SL		
FIS		FISかもい岳 GS GS FIS蔵王ライザ SL SL	UNI学生チャンピオン(志賀) SG		U20学生チャンピオン(パインピーク) GS GS SL SL															FISステップアップ(志賀) GS GS SL SL			NJC/FIS全日本ジュニア(雫石) SG SG FIS北海道選手権(カムイリンクス) SG SG		FISパインピーク SL SL			
SAJ				A インカレ(志賀) SG	A全国中学(万場) SL 男GS 女GS				A インターハイ(鹿角) 女GS 男GS 女SL 男SL	Bびっぷ GS					A国体(札幌) GS GS GS					A インカレ(野沢) GS GS SL SL A/YH全日本ジュニア(雫石) SG SG									
ユース		YH栂池ジュニア SG SG	YHサホロ GS						YH零石ユース SG GS SL	YH関東ユース(野沢) SL GS YH福島県Jr.(かねやま) GS YH米沢 SL SL YH北海道ユース(テイネ) SL						YHマルトクふるせ(山形赤倉) GS SL YH Mt.Myoko(新潟赤倉) GS YH北海道ユース(朝里) SL GS	YHユース群馬(宝台樹) SL YH白馬少年 GS						YH岐阜県ユース(モンデウス) GS SL YH戸隠Jr. SL SL YHアベトーネ(上越国際) SL GS YH三笠ユース SL SL			YH戸隠ユース GS SL	

2018/10/10現在

2018/2019シーズン　SAJ公認競技会一覧

3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
WC FEC			Universiade(Krasnoyarsk RUS)										World Cup Final (Soldeu AND)																		
			FEC遠軽 GS SL SL																FEC (Yuzhno-Sakhalinsk RUS)												
FIS		FIS安比 SL SL			FIS甲信越ブロック（志賀） SG/AC SG/AC		FIS長野県選手権（志賀） SL SL	FIS宮様（テイネ） GS GS SL	FIS/YH西日本選手権（大山） GS/SG SL									FISほうのき GS GS			全日本ジュニア（阿蘇） NJC SL FIS SL			全日本ジュニア（ぬかびら） NJC GS FIS GS		FIS蔵王ライザ GS GS			FIS愛知GSL（ほおのき） GS GS		
SAJ					B福島県選手権（猪苗代） SG SG				B/YH福島県選手権（かねやま） GS SL B/YH蔵王ライザ GS GS SG			B/YH山形県選手権（蔵王ライザ） SG	A高校選抜（志賀） SG GS SL			B/YHかねやま GS GS B/YH氷ノ山 GS SL				B上越国際 SL SL GS GS						B関東選手権（尾瀬岩鞍） GS SL		A/YHジュニアオリンピック（志賀） SG GS SL SL		
ユース		YH ZAO猿倉 SL SL YH松之山SG（松之山） SG YH関東ユース神奈川（上越国際） SG SG YH北海道ユース（テイネ） GS GS YH栃木県ユース（ハンターマウンテン） SL SL					YH長野県ユース（パインピーク） SG SG SL		YH旭川ユース SG SG YH富山県ユース（立山山麓） GS SL							YH 南関東ユース（尾瀬岩鞍） SL GS YH 関東小学生（尾瀬岩鞍） SL GS YH上越国際 SG SG						YH甲信越ユース（志賀） SG	YH志賀少年 GS	SL GS SL YHユース安比オープン SG SL							YHいわて下倉ユース GS SG YH大原ユース群馬（魚沼大原） SL SL	

4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
FIS								FIS野沢温泉 GS GS SL SL					FISニセコグランヒラフ GS GS ENL/YH八幡平 SL SL							FIS八幡平 SL SL				FIS J-POWER（奥只見） SL SL						
SAJ																						B甲信越高校（奥只見） SL SL								
ユース			YH東海ユース（ほうのき） SG SG			YHユース群馬（尾瀬岩鞍） SG SG																								

2018/10/21

SAJアルペン委員会

2018-2019 SAJアルペン主要大会 派遣役員ノミネート

月	大会名	開催地	公認	TD	レフリー	ポイント委員	セッター長	マテリアル
				担当：渡辺	担当：網野	担当：大野	担当：久保田	担当：網野
12月	全日本選手権（技術系）	北海道・阿寒	FIS/NC・SAJ/A	【FIS】 BYUN JONG-Woo（KOR）			大瀧詞久（長野）	新　敏彦（北海道）
1月	全日本選手権（スピード系）		FIS/FEC・SAJ/A	【FIS】 YANG Sung Chul（KOR）			相原博之（北海道）	
	学生チャンピオン		FIS UNI・SAJ/A	【FIS】 YANG Sung Chul（KOR）	神崎信彦（学連）		相原博之（北海道）	
2月	インカレ（スピード系）		SAJ/A	M 高橋　　稔（愛知） L 神崎　信彦（学連）	金子未里（秋田県）		M 相原博之（北海道） L 杉山裕彦（学連）	
	全国中学	新潟・苗場	SAJ/A（ユース）	森　　晃（長野）	岡崎若華（山形県）		大瀧詞久（長野）	
	学生チャンピオン	長野・ﾊﾟｲﾝﾋﾞｰｸ	FIS UNI・SAJ/A	【FIS】 中村実彦（長野）	M 高橋　稔（愛知県） L 神崎信彦（学連）		相原博之（北海道）	
	インターハイ	秋田・花輪	SAJ/A	平田怜吾（岐阜）	滝下靖之（北海道）		金子未里（秋田）	松岡尚幸（北海道）
	国民体育大会	北海道・札幌	SAJ/A	前原　力（新潟）	関　　潤（富山）		相原博之（北海道）	長沢　順（北海道）
	インカレ	長野・野沢温泉	SAJ/A	M 高橋　　稔（愛知） L 神崎　信彦（学連）	M 岡澤研太（学連） L 西　裕之（愛知）		M 相原博之（北海道） L 杉山裕彦（学連）	
	ユース・全日本ジュニア（スピード系）	岩手・雫石	SAJ/A（ユース）	富井剛志（長野）			金子未里（秋田県）	
	全日本ジュニア（スピード系）	岩手・雫石	FIS/NJC・SAJ/A	【FIS】 松本和也（群馬）			伊藤雄一（岩手県）	
	FAR EAST CUP	秋田・花輪	FIS/FEC・SAJ/A	【FIS】 Sanderson Scott（AUS）			本田浩樹（福岡）	加藤清孝（秋田）
3月	FAR EAST CUP	北海道・遠軽	FIS/FEC・SAJ/A	【FIS】 Sanderson Scott（AUS）			坂井　優（北海道）	松岡尚幸（北海道）
	全国高校選抜	長野・志賀高原	SAJ/A	笹原宗悦（宮城）			関　喜行（長野）	
	全日本ジュニア（GSL）	北海道・ぬかびら	FIS/NJC・SAJ/A	【FIS】 加藤清孝（秋田）			川口城二（北海道）	
	全日本ジュニア（SL）	北海道・阿寒	FIS/NJC・SAJ/A	【FIS】 加藤清孝（秋田）			川口城二（北海道）	
	ユース・ジュニアオリンピック	長野・志賀高原	SAJ/A（ユース）	玉川映一（北海道）			金子未里（秋田）	

※マテリアル測定担当者　　については、2018-2019よりSAJアルペン部で指名する。

2018.10.21
SAJアルペン委員会

2018-2019シーズン　マテリアルコントロール機材　輸送計画（アルペン）案

大会名	会場	検査実施アイテム	機材使用期日予定 （機材移動情報含む）		SAJ事務局 発送月日 （事務局記載）	機材取扱い責任者 /　測定担当者	備考（機材送付先等）
第31回GWカップ 阿寒SL大会 12/16-17	北海道 釧路市	ブーツ＆プレート	12月10日 機材：SAJ事務局より			野村　隆 /松岡　尚幸	〒085-0467　北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目6番20号 NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構内 ゴールドウインカップ阿寒スラローム大会事務局 TEL 0154-67-3200　FAX 0154-67-3024 終了後、そのまま全日本（技術系）で使用
全日本 （技術系） 12/25-28	北海道 釧路市	ブーツ＆プレート		機材：下記大会へ		野村　隆 /新　敏彦	〒085—0467　北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目6番20号 阿寒湖まりむ館内 阿寒湖温泉冬季スポーツ大会実行委員会事務局 TEL 0154-67-3200　FAX 0154-67-3024 終了後、全日本（スピード系）へ送付
全日本 （スピード系） /		ブーツ＆プレート ウエア FIS冠：20仮払い	1月　　日 ブーツ＆プレート機材 ：上記大会より ウエア機材 ：SAJ事務局より	ブーツ＆プレート機材 ：下記大会へ ウエア機材 ：SAJ事務局へ			終了後、ブーツ＆プレート機材はインターハイへ送付 ウエア機材はSAJ事務局に送付
インターハイ 2/8-12	秋田県 鹿角市	ブーツ＆プレート	2月6日 機材：上記大会より	機材：下記大会へ		佐藤　久和 /松岡　尚幸	〒 018-5201　秋田県鹿角市花輪字荒田4番地1 鹿角市教育委員会スポーツ振興課内 第68回全国高等学校スキー大会秋田県実行委員会事務局 TEL 0186-30-0286　FAX　0186-22-0888 終了後、国体へ送付
国体 2/14-17	北海道 札幌市	ブーツ＆プレート	2月13日 機材：上記大会より	機材：下記大会へ		大原　敏史 / 長沢　　順	〒060-0004　北海道札幌市中央区北４条西３丁目 北海道建設会館8階　公益財団法人札幌スキー連盟 TEL 011-221-1661　FAX 011-232-5975 終了後、FEC秋田鹿角へ送付
FEC花輪 2/24-27	秋田県 鹿角市	ブーツ＆プレート ウエア FIS冠：20仮払い	2月23日 ブーツ＆プレート機材 ：上記大会より ウエア機材 ：SAJ事務局より	機材：下記大会へ		佐藤　範朋 /加藤　清孝	〒 018-5201　秋田県鹿角市花輪字百合沢81-1　アルパス内 2019FISファーイーストカップ花輪大会事務局 TEL　0186-23-8000　FAX 0186-23-8585 終了後、FEC遠軽へ送付
FEC遠軽 3/1-4	北海道 遠軽町	ブーツ＆プレート ウエア FIS冠：20仮払い	2月28日 ブーツ＆プレート機材 ウエア機材 ：上記大会より			水野　　徹 / 松岡　尚幸	〒099-0403　北海道紋別郡遠軽町一条通北2丁目3番地45 遠軽町教育委員会内　FEC遠軽大会組織委員会 TEL 0158-42-2191　FAX 0158-49-2566 終了後、SAJ事務局へ送付

*輸送の際には200万円の保険に加入してください。
*説明書及び会場ごとの報告書が同梱されています。会場ごとに報告書をまとめ、次の会場へ引き継ぎをお願いします。

2018 年 10 月 14 日
アルペン委員会

国内主要大会 競技期間中の公認大会開催の制限について

332　全日本スキー選手権大会開催規定

第 5 条-2
　全日本スキー選手権大会開催中は、本連盟理事会の特別の許可なしに、どの加盟団体においても同一種目のＢ級大会以上の競技会を開催してはならない。また会期前の 4 日間は競技会開催地及びその付近で行う同一種目の競技会を開催する場合は、理事会の許可を必要とする。

以下、アルペン委員会の申し合わせ事項とする

主要大会

大会名	開催制限
国民体育大会 （SAJ-A）	競技開催期間、15 歳以上を対象とした公認大会の申請はできない。
全日本学生スキー選手権 （SAJ-A）	競技開催期間、大学生を主対象とした公認大会の申請はできない。
全国高校スキー大会 （SAJ-A）	競技開催期間、高校生を主対象とした公認大会の申請はできない。
全国中学スキー大会 （SAJ-A ユース）	競技開催期間、K2 選手を対象とした公認大会の申請はできない。
全日本 Jr.スキー選手権 【技術系】【スピード系】 （NJC）	競技開催期間、16 歳～21 歳までのジュニア選手を対象とした公認大会の申請はできない。
全日本 Jr.スキー選手権 【技術系】【スピード系】 （SAJ-A ユース）	競技開催期間、K2 選手を対象とした公認大会の申請はできない。
JOC ジュニアオリンピック （SAJ-A ユース）	競技開催期間、ユース選手を対象とした公認大会の申請はできない。

2019-2020 シーズン

大会名	開催制限
ワールドカップ苗場大会	競技開催期間、すべての公認大会の申請はできない。

2017-19シーズン　男子FIS登録者数とレース数

	FIS登録者数	SL	GS	SG	計
北海道	125	5	10	2	17
東北	87	6	4	1	11
関東	129	3			3
甲信越	126	9	8	2	19
東海北陸	72	4	6		10
西日本	63	2	2		4
学連	349	2	2	1	5
計	951	31	32	6	69

2018/19 シーズンに向けて

1. 18-19 シーズンより、A 級大会（FIS を含む）の競技委員長は、①TD 資格者、②該当シーズンの TD セミナー受講者（未取得者の場合）の
①、②いずれかとします。　（受講修了証を発行します）

2. 18-19 シーズンより、A 級大会（FIS を含む）のレフェリーは A 級セッター資格者、B 級大会のレフェリーは B 級セッター資格者以上とします。

3. 19-20 シーズンより、SAJ 公認大会の TD は開催県以外の登録者とします。
- 北海道はブロック内他エリアの登録者

4. 19-20 シーズン（19 年春受験登録）より TD 受験資格の変更する予定で「競技会役員経験者」からの受験を可能します。承認後通知します。

5. 17-18 からは、国内レースでは TD が主体となりレースをコントロールする。
但し、男女同日開催等で運営の円滑化を図る場合は、ジュリーで事前協議の上、
レフリーがレースコントロールすることができる。

6. **2019 年秋**の SAJ-TD セミナーから、東京 1 会場と地方 2 会場ぐらいでの開催を検討。

7. SAJ-TD 謝礼金を 1 万円で統一しているが、国体、インターハイ、全中、インカレなど自治体が実行委員会に入っている場合には、各組織委員会での事前承認が必要である。

8. SAJ-TD 検定学科試験問題内容について
（ア）①　今回から、ＴＤの任務などをメインとする内容で出題
（イ）②　事例問題 2 問
（ウ）③　計算問題 2 問

2018 年 10 月 1 日

SAJTD レポート作成に関する留意点

入力について

2017/2018 シーズンより TD レポートは PDF フォーム形式となっています。必ず最新版の Adobe Acrobat Reader DC を利用してください。

Macintosh や Window10 などでもファイルの中身を確認、フォームへの入力も可能ですが、画面上で入力が確認できていても集計時にデータが読み込めないエラーが出ております。

フォームの赤枠は記入必須場所となります。

記入必須場所記入後に必要に応じて保存をしてください。ファイル名の付け方はハンドブックを参照してください。

例：2018/2019 シーズンの Codex9999 のレース　→　ALTD20189999.pdf

コース公認番号について

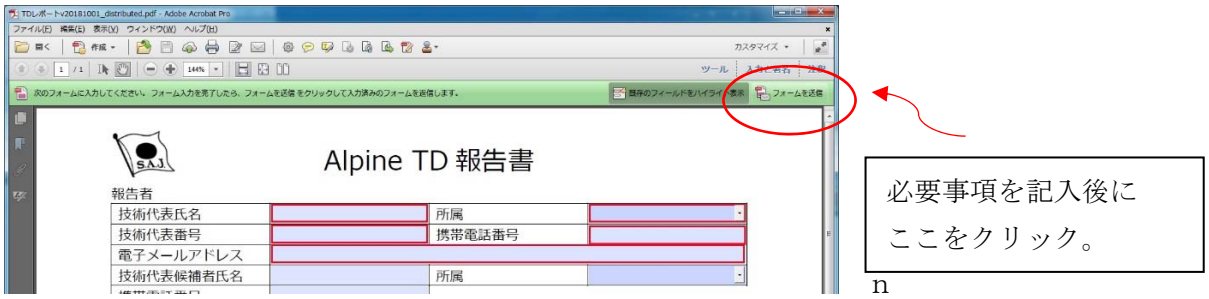
コース公認番号の種目後の数値が 2 桁の場合は、0 を最初に追加して 3 桁でご記入ください。

例：SAJ00-DH-99/50　→　SAJ00-DH-099/50

提出について

TD レポートは 2 種類の提出方法があります。TD 自ら提出をするようにしてください。

1. フォームから直接送信提出する。
   この場合はすべて記入後右上にある「フォームを送信」をクリックし、氏名、電子アドレスを記入し、デフォルトのメールプログラムより送信ができます。特に題名などを変更する必要はありません。



2. 一度保存をして後ほど送信提出をする。
   保存した TD レポートを送信するときは件名に codex を記入し、圧縮をせず tdr@team-unit.com へ送信してください。

どちらの場合も受信が成功するとすぐに自動返信メールが届きます。もしそれが届かない場合は不達が考えられますので、再度送信をしてください。

不明点などがありましたら送信されたメールアドレスへ問い合わせをいたします。

不具合について

不具合などが発見された場合、tdr@team-unit.com までご連絡ください。

報告者

技術代表氏名		所属	
技術代表番号		携帯電話番号	
電子メールアドレス			
技術代表候補者氏名		所属	
携帯電話番号			

競技会情報

競技会名				開催日	
開催地				開催都道府県	
開催コース名			公認番号		
種目			性別	女子 ○	男子 ○
スタート標高（実測値）	m		フィニッシュ標高（実測値）	m	
標高差	0 m		コース全長	m	
1 本目旗門数		1本目ターン数			
2 本目旗門数		2本目ターン数			
カテゴリー			コーデックス		
カレンダー通りの開催でしたか。			はい ○	いいえ ○	
どこの代替開催でしたか。					
ペナルティポイント					

報告内容

本レースを SAJ ポイントの対象としますか？		はい ○	いいえ ○
事前の下見の際に、既存の状態に対して、改善を提案した内容を記載してください。 (安全面など)			
参加者数		完走者数	
1 本目棄権スタート者数		NPS 数	
参加都道府県数			
使用スラロームポール製造社名			
使用フラッグ製造社名			
雪面硬化剤の使用はありましたか。		はい ○	いいえ ○
救急体制は適切でしたか。		はい ○	いいえ ○

傷害報告（重傷事例については別途報告書を作成のこと。）

練習中（競技日のみ）				競技中			
SAJ No.	氏名	所属	傷害内容	SAJ No.	氏名	所属	傷害内容

その他

抗議	なし ○	あり ○	条項		
制裁	なし ○	あり ○	条項		
計時計算のトラブルはありましたか。			なし ○	あり ○	
ドーピングコントロールはありましたか。			なし ○	あり ○	
補足事項					

11.　FIS 脳振盪ガイドライン（2017 年版）

目次

11.1 概要 1
11.2 背景 1
11.3 脳振盪とは何か 2
11.3.1 脳振盪の理解の重要性 2
11.4 脳振盪の兆候とは何か 3
表1：よくある脳振盪の早期兆候と症状 3
11.5 ステージ1：脳振盪の診断と管理 4
11.5.1 応急処置の原則を思い出せ: 4
11.5.2 評価と移動 4
11.5.3 疑わしければ、参加させない 4
11.5.4 監視を続ける 4
11.6 医師や医療関係者がいる場合 4
11.7 記憶に関する質問の例 4
11.8 医師や医療関係者がいない場合 5
11.9 初期症状 － 遅発性の場合あり 6
11.10 ステージ 2 –競技復帰 6
11.11 段階的復帰プロトコル 6
表 2: 段階的復帰プロトコル 7
11.12 小児および青少年 7
表 3: 復学戦略 8
11.13 GRTP 過程における症状の再発 8
11.14 症状の再発 8
11.15 残存効果と後遺症 9
12. 有用なリンク 9

11.1　概要

- 脳振盪は選手の長期福利を守るためにもきわめて慎重に対処されなければならない。
- 脳振盪の疑いのある選手は直ちに競技から外れ、競技または練習を再開してはならない。
- 脳振盪の疑いのある選手は医学的に評価されなければならない。
- 脳振盪の疑いのある選手、又は脳振盪と診断された選手は段階的競技復帰プロトコル（GRTP: a graduated return to play protocol）を必ず経なければならない。
- 対象選手は競技復帰する前に必ず医学的に許可を受けなければならない。

11.2　背景

スポーツ関連脳振盪（SRC）はスポーツ医学において、診断、評価、管理がもっとも複雑な障害とされている。

FIS は選手の福利を真剣に捉え、世界脳振盪ガイダンスおよび脳振盪チューリッヒコンセンサス（チューリッヒ 2008/2012；ベルリン 2017）に従うことを目的とする。脳振盪の分野の科学的知識は絶えず進化していくため、統一見解としての FIS ガイドラインは、これらの変化に確実に対応していかなければならない。ガイドラインは医師やその他の医療関係者、そして指導者、チーム管理者、教師、保護者と選手に使用されるよう作成された。
ガイドラインは脳振盪を受傷した選手が効果的に管理され、彼らの長期健康と福利を守ることを保証するためのものである。

FIS は、2017 年のベルリンコンセンサス声明を踏まえた脳振盪ガイドラインを推奨する。我々はベルリンの勧告に従って保守的で規範的な角度からアプローチする。脳振盪を評価し、回復過程を導くために使用されているポケット脳振盪識別ツール（PCRT: Pocket Concussion Recognition Tool）とサイドラインでの脳振盪評価ツール（SCAT: Sideline Concussion Assessment Tools）が改訂されたため、最新版（SCAT5 と Child SCAT5）の使用を推奨する。注意：PCRT は医師以外も使用できるが、SCAT ツールは医師のみが使用するものである。

FIS ガイダンスは、国際的なコンセンサスの推奨に基づいている。ガイダンスから逸脱する場合には、この領域の専門知識を有する医療者によって管理されなくてはならない。臨床的には、ガイダンスの指示よりも保守的な転帰をたどる場合がしばしばある。例えば、多くの競技において、競技復帰（RTP）までの平均期間は、推奨されている 6/7 日よりも通常長い。

SCAT5 に用いられる用語、過程、評価は、国によって異なるかもしれない。もし負傷した選手の言語が英語以外だった場合には、選手を担当する医療者は、適切に翻訳された SCAT ツールを探すべきである。

11.3　脳振盪とは何か

脳振盪とは外傷が原因で脳に直接的または間接的に外力が伝わり、脳の機能に一時的な障害を生じる複雑な過程である。その進行と消退は急速で自然におこる。

スポーツ関連脳振盪の大多数は意識消失や明らかな神経学的兆候を伴わない。

脳振盪は順次消退していく段階的な臨床的兆候と症状の組み合わせにより生じる。

脳振盪は構造上の傷害よりも機能的な障害をもたらし、標準的な神経画像は通常は正常である。

FIS の種目に参加する競技者は、脳振盪を引き起こしうる直接的および間接的な外力にさらされやすいかもしれない。

11.3.1　脳振盪の理解の重要性

幸いにも、ほとんどが脳振盪には至らないが、脳振盪を生じさせる外力（直接的、間接的/伝搬性のいずれも）は冬季スポーツではよく起こる。

脳振盪の初期症状はバリエーションが大きい。回復はしばしば兆候や症状の急速な消退と認知の変化（数分から数日）とともに自然に起こる。このことが、選手が脳振盪の症状を受傷時に無視したり、診断された脳振盪から完全に回復する前に競技復帰してしまう可能性を増加させうる。その結果より重度の脳障害や復帰時期の遷延が生じ得る。

この重度の、また遷延する障害を生じる可能性のために、脳振盪が完全に回復するまでの包括的な医学的評価とフォローアップが必要である。

脳振盪の完全な回復前の競技復帰は、選手の脳振盪の再発のリスクを高めてしまう。繰り返す脳振盪は、選手の競技人生を短くし、不可逆的な神経損傷を生じる可能性がある。

稀に、繰り返す脳振盪は壊滅的で生命を脅かす結果をもたらすかもしれない。選手は自分を守るためにも、自分自身と医療スタッフに対して正直でなければならない。

我々は、脳振盪は可変的かつ流動的な障害であり、時に進行性で遷延する兆候や症状が特徴であることを強調する。脳振盪の疑いがある選手は、48 時間は監視されなくてはならない。48 時間以降に症状が出現することは滅多にない。

11.4　脳振盪の兆候とは何か

選手が脳振盪を起こしている可能性を示す兆候と症状を表 1 に示す。もし選手に頭頚部への直達外力あるいは他の部位から頭部へ伝わる外力の結果として表 1 で示されたいずれかの症状が表れる場合、脳振盪が疑われる。

表1：よくある脳振盪の早期兆候と症状

指標	兆候
症状	頭痛 めまい 霧の中にいるような感覚 失見当識 複視 嘔吐
身体的兆候	意識消失（疑いもしくは確定） 外傷性てんかん；強直肢位 不適切なプレイ動作、足のふらつき、 転倒時防衛反応の消失 うつろな表情 起き上がるのが遅い 頭を抱える バランス障害、協調運動障害 耳鳴り；光/音への過敏
行動の変化	不適切な感情、苛立ち、

	緊張や不安に感じる
認知障害	反応時間の鈍化 混乱/失見当識 注意力や集中力の低下 脳振盪発症前後の記憶の喪失
睡眠障害	眠気

11.5 ステージ1：脳振盪の診断と管理

選手が脳振盪の疑いがあるときどう対処すべきか？

11.5.1 応急処置の原則を思い出せ

迅速に － 傷害の一般的な評価
ⅰ. GSC (Glasgow Coma Scale)
ⅱ. 頚椎検査
ⅲ. Maddocks Questions (スポーツに適したもの，下記参照)

もし競技者の状態が大幅に懸念される場合には、最寄りの医療機関への緊急搬送を検討しなければならない。

11.5.2 評価と移動

選手が脳振盪の疑いがある場合は、競技から直ちに外れ、競技を再開させてはならない。

11.5.3 疑わしければ，参加させない

11.5.4 監視を続ける

脳振盪は時に進行性の障害であり、遅発性（通常は受傷後 48 時間以内）に兆候や症状が出現する場合があるため、悪化の兆しを見逃さない。

11.6 医師や医療関係者がいる場合

頭部外傷や脳振盪を引き起こす可能性のある外傷が生じ、医師または医療関係者がいる場合、選手は検査を行い、もし表 1 に示されたいずれかの兆候や症状が認められたり、ポケット脳振盪識別ツール（PCRT）の 5 つの記憶に関する質問を正しく回答出来なかった場合、選手は包括的な医学的評価のために競技場から直ちに外れなければならない。選手のバランス評価は、この場外評価に含まれるべきだ。選手は一度脳振盪の疑いで競技から外れたら、再参加してはならない。選手を競技場もしくはサイドラインから退場させ、静かな場所（例：救護室）へ移動させて、SCAT5 の評価（医療者の場合のみ）を含めた全体的な評価をすることが望ましい。競技者にテストの前に（10 分間）休息を取らせても良い。注意：SCAT5 は脳振盪を診断もしくは除外するために用いるべきではない。もし SCAT5 が“正常”であっても、競技者が脳振盪を発症している可能性はある。

11.7　記憶に関する質問の例（チーム競技のために考案された Maddocks Questions からの引用）：

- 私たちは今日どこの会場にいますか？
- 今は 1 本目ですか？それとも 2 本目ですか？
- 1 本目であなたは何位でしたか？
- 先週あなたはどこの大会に参加していましたか？
- 前回の大会であなたは何位でしたか？

選手は一般的な緊急管理手順に従って安全に移動されなければならない。頚髄損傷が疑われる場合には、適切な脊髄のケアのトレーニングを受けた救急医療関係者によってのみ移動されるべきである。

もし医師が競技場にいる場合は、彼らは脳振盪あるいは脳振盪疑いの選手の包括的な医学的評価の一助として、スポーツ脳振盪評価ツール SCAT5
http://bjsm.bmj.com/content/bjsports/early/2017/04/26/bjsports-2017-097506SCAT5.full.pdf 又は、その他の診断ツールを使用できる。SCAT5 は 13 歳以上の選手にのみ使用可能とする。

脳振盪の疑いのある選手はその後の診断に関係なくステージ 2、段階的競技復帰プロトコルに進む。

SCAT5 脳振盪評価プロトコルは、医師が使用するためだけにダウンロードが可能である。

11.8　医師や医療関係者がいない場合

医師または医療関係者が不在の場合、受傷した選手は見当識を失い、自身の状況に関して判断が出来ない可能性がある。

頭部外傷もしくは脳振盪を引き起こす可能性のある外傷後、表 1 に示すいずれかの兆候を示す選手を見た選手やコーチ、大会役員、チーム管理者、運営者、保護者は、選手を確実に競技場から安全に移動させることに全力を尽くさなければならない。選手を一人にしてはいけない、また乗り物を運転してはならない。もし医師が現地にいない場合は、選手はできるだけ早く医師を受診し、診断と包括的な評価を受けなければならない。ポケット脳振盪識別ツール（PCRT）（後述のリンクを参照）は、外傷発生時に医師がいない場合に、脳振盪の疑いがあるかの同定の一助として使用可能である。最も重要なことは、選手が以下に該当するかどうかである：

a. 表1のいずれかの症状を示す
b. PCRT の記憶に関する質問のいずれかでも答えられない
c. バランスの喪失や PCRT にある危険信号症状を示す
d. 脳振盪を疑わせる懸念がある

これらのいずれかに該当する場合、脳振盪管理ガイドラインに従わなければならない。選手は競技から外れ、直ちに医師または救急部に診断と包括的な評価を受けなければならない。脳振盪の疑いのある選手はその診断に関係なく、段階的競技復帰プロトコルに進む。

PCRTは以下のリンクからアクセス可能である：
http://bjsm.bmj.com/content/early/2017/04/26/bjsports-2017-097508CRT5

11.9　初期症状　–遅発性の場合あり

脳振盪の初期症状は脳振盪が疑われる原因となる外傷後すぐに生じることもあれば、遅れて（通常は最初の 24–48 時間以内に）症状が出現する場合もある。

これらの遅発性の症状を見逃さないための監視システムを構築しなくてはならない。脳振盪が確定したもしくは疑われる場合には、新たな症状の出現や、症状の進行の兆候がないか、繰り返し確認しなくてはならない。

11.10 ステージ 2 –競技復帰

FIS は、競技復帰までには最低でも 7–10 日間の期間を設けること、また熟練した医師による許可を得たうえでのみトレーニングへ復帰することを推奨する。
回復までに要する休養期間に関しては、十分なエビデンスがない。24–48 時間の短期間の休養後に、段階的復帰（GRTP）計画を開始することが妥当であろう。

症状が持続する場合には専門家へ紹介する。
成人では 10–14 日以上
子供（13 歳未満）では 4 週間以上

症状の遅延や異常な回復経過を示す症例では、脳振盪専門家による正式な神経心理学的な検査を受けなくてはならない。

一般的に、初期症状が重症であるほど、回復も遅くなる。

日々の多様な専門的検査を受ける手段がある場合にのみ、表 2 に示した時系列を例外的に早めることができるかもしれない。

注意：以下についてはエビデンスがある。

i. 小児は成人よりも脳振盪後の回復に時間を要する
ii. 女子選手は男子選手よりも影響を受けやすく、回復に時間がかかるかもしれない

11.11 段階的復帰プロトコル

競技復帰のために推奨されるアウトラインを表 2 に示す。それには柔軟性がなくてはならない。もし症状が持続する場合、再発する場合には開始してはならず、負傷した選手は以前のステップに戻る前に、24 時間の休養を取らなくてはいけない。それは選手と医療スタッフ/コーチングスタッフが協調して行う過程である。

プロトコルは無症状になった時点で開始されるべきである。GRTP の過程を完遂するのには、通常最低でも 1 週間を要するが、より多くの時間がかかる場合もある。

科学は不完全であり、個人ベースの臨床的な評価が脳振盪管理と GRTP プロトコルにおける鍵であると認識されている。

表 2：GRTP プロトコル

リハビリテーションステージ	リハビリテーションの各ステージの機能的エクササイズ	各ステージの目標
1. 活動なし、医師の管理がある場合は受傷から最低24時間（それ以外は受傷から最低14日間）	無症状での身体的、認知的休養の完了	回復
2. 24時間の期間中の軽い有酸素運動	ウォーキング、水泳またはサイクリングマシン、予想最大心拍数<70%を維持。筋力トレーニングはなし。24時間の無症状。	心拍数の増加
3. 24時間の期間中のスポーツ特異的な運動	ランニング練習。頭部への衝撃を伴う運動はなし。24時間の無症状。	動作の追加
4. 24時間の期間中のノンコンタクトの練習	複雑な動作の練習へと進む。（例：パス練習など）筋力トレーニングの開始。24時間の期間中無症状。	運動、協調運動、認知的負荷
5. フルコンタクト練習	医師の許可の後、通常練習に参加	自信の再取得、コーチによる機能的技術の評価
6. 24時間後、競技復帰	リハビリ修了	完全復帰

選手が医師に脳振盪の診断を受ける、あるいは GRTP を管理してもらう手段がない極端な状況もありうる。これらの状況下では、もし選手が脳振盪の兆候がある場合、その選手は脳振盪の疑いとして扱われなければならず、受傷後最低でも 21 日間は競技へ復帰してはならない。減弱化させた GRTP 計画に従うべきである。その選手に関わる他の選手、コーチ、大会運営者はその選手がこの過程に従っていることを確認する。

現地での法律と規制に従って、医師による競技復帰への最終的な許可書が常に求められるべきである。

11.12 小児および青少年

ガイドラインは全年齢の選手に適応される一方、成長過程の脳に対する脳振盪によって生じ得る危険性のため、小児や青少年には特に注意が必要である。

学習への復帰や競技復帰プロトコルを開始する前に、最初の数日間は身体および認知機能を休息させることが推奨される。

13 歳未満の小児には異なった脳振盪の症状が表れる可能性があるため、診断ツールを用いた医師による評価が必要である。小児（5-12 歳）および青少年（13-18 歳）に脳振盪の疑いがある場合は直ちに医師を受診する。

加えて、専門医による医学的評価が必要な場合もある。小児や青少年の治療に責任のある医師は選手の競技復帰について指示するが、より慎重な段階的競技復帰が推奨される。これより先に、学習/学校へ段階的に復帰しなければならない（SCAT5 CHILD および表 3 参照）。段階的競技復帰プロトコルのステージ 4 もしくは 5 に進む前に、復学プロトコルを達成すべきである。小児および青少年においては、無症状の休養期間と段階的な負荷の期間を延長することが適切である。

小児や青少年は医師の許可なく競技復帰してはならない。

SCAT5-CHILD は、以下のリンクから、医師が使用するためだけにダウンロードが可能である。
http://bjsm.bmj.com/content/bjsports/early/2017/04/26/bjsports-2017-097492childscat5.full.pdf

表 3：復学戦略

ステージ	目的	活動	各ステップのゴール
1	生徒/競技者が症状をきたさない、家での日常的な活動	症状を増悪させない日中の典型的な活動（例；読書、書き物、視聴）。5-15 分から開始し、少しずつ増やす。	典型的な活動への段階的復帰
2	学校の活動	宿題、読書または教室外での認識活動	認識負荷への耐性強化
3	部分的な復学	学業の段階的な導入。授業日の一部、もしくは日中の休息を増やして開始する必要があるかもしれない。	学術活動の増加
4	フルタイムの復学	段階的進行	学術活動全般への復帰と、学業の遅れを取り戻す

11.13 GRTP 過程における症状の再発 – 一段階前のステップのプロトコルを再開する前に 24 時間休息する

選手は脳振盪後できるだけ早く競技へ復帰したいものである。選手、コーチ、管理者、保護者、そして教師らは、以下に注意して行動しなければならない。

i. 全ての症状が治まったことを確実にする
ii. GRTP プロトコルに従ったことを確実にする
iii. 医師の指示に厳密に従ったことを確実にする

これらを実行する上で、全ての配慮が選手の競技寿命と長期における健康のリスクを減らすことができる。

11.14 症状の再発

脳振盪の管理過程に関わる全ての人は、脳振盪受傷後にGRTPを修了後も、症状（うつ病やその他の精神衛生上の問題を含む）の再発に警戒しなければならない。もし症状が再発した場合、選手は直ちに医師を受診しなければならない。そして脳振盪の管理過程に関わる全ての者もしくは症状

の再発に気づいた者は、対象の選手ができるだけ早く医師の診察を受けることを確実にするべきである。

11.15 残存効果と後遺症

脳振盪後にみられる多くの様々な症状について以下に記す（しかし以下に限ったものではない）：

i. 抑うつ
ii. 認知機能障害
iii. 不安
iv. 頭痛
v. 睡眠障害
vi. 外傷後ストレス障害（PTSD）
vii. 慢性外傷性脳症（CTE）

長期的な後遺症のリスクを減らすためには、いかなる脳振盪後にも完全に回復したことを確認することが最善の策である。

12. 有用なリンク

1. ベルリン コンセンサス声明 2017
http://bjsm.bmj.com/content/51/11/838

2. SCAT5 2017（医師のみ）
http://bjsm.bmj.com/content/bjsports/early/2017/04/26/bjsports-2017-097506SCAT5.full.pdf

3. SCAT5 CHILD 2017（医師のみ）
http://bjsm.bmj.com/content/bjsports/early/2017/04/26/bjsports-2017-097492childscat5.full.pdf

4. PCRT 2017
http://bjsm.bmj.com/content/early/2017/04/26/bjsports-2017-097508CRT5

これらのツールは英語圏で使用するために作成されている；適切なバージョンが使用されるべきであり、他の主要な言語への翻訳が進行中である。

多くの競技が、医療従事者だけでなく、競技者、指導者、保護者、観客のためにも、脳振盪の専門的能力と教育のためのオンラインリソースを開発している。最も良いものの一つ：
http://concussioninsport.gov.au

FIS 脳振盪ガイドライン – 2013 年 7 月